



学期	題材	目標と学習内容	学習指導要領との対照									学習指導要領との対照									評価の観点 【知・技】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度				
			A 表現									B 鑑賞													
			(1) 歌唱			(2) 器楽			(3) 創作			(1) 鑑賞													
			ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア			イ			内容の取扱い※							
			(ア)	(イ)		(ア)	(イ)					(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)		(イ)						
I 学期 (9~12月)	日本の心	【目標】 曲想と民謡特有のリズムや音階との関わりを理解し、表現の工夫をして、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 【学習内容】 ・曲想に合った発声と表現の工夫をする。 ・民謡の文化的、歴史的背景を理解する。	○	○	○	○																	(1) (2) (2) (4) (8) (11)	【知・技】・曲想とリズムや旋律、音階との関わりについて理解している。 ・民謡にふさわしい発声・発音などの技能を身に付けている。 【思】旋律と音階の関連を知覚し、それらの働きを感じながら民謡の文化的・歴史的特徴について考え、民謡に合った表現を創意工夫している。 【態】日本民謡に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
	世界の心	【目標】 各国の民謡の音階や旋律の特徴を理解し、個性豊かな表現の工夫をして、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 【学習内容】 ・曲想の特徴を感じ取り、表現の工夫をする。 ・日本歌曲との和声感の違いを感じ取る。	○	○	○	○																	(1) (2) (2) (4) (8) (11)	【知・技】・リズムや旋律、音階の違いによる音楽文化の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、リズムやテンポ感を表現する技能を身に付けている。 【思】旋律と音階の関連を知覚し、それらの働きを感じながら世界の音楽の文化的・歴史的特徴について考え、各国の音楽に合った表現を創意工夫している。 【態】世界の音楽に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
	オペレッタ	【目標】 オペラ、オペレッタに関心を持ち、作品の表現内容を理解し、人物の心情に合った表現を創意工夫し、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 【学習内容】 ・各国の言語の特徴と旋律との関わりを理解する。 ・場面や曲想に合った表現の工夫をする。	○	○	○																		(1) (2) (2) (4) (8) (11)	【知・技】・作品のストーリーと楽曲の表現内容との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、外国語の発音や発声と人物の心情を感じ取って表現できる技能を身に付けている。 【思】旋律とハーモニーの関連を知覚し、それらの働きを感じながら、曲想の美しさについて考え、人物の心情に合った表現を創意工夫している。 【態】外国の舞台作品や言語に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
	楽器にチャレンジ	【目標】 曲想と演奏形態の特徴との関わりを理解し、楽器の演奏技能を身に付け、アンサンブルのよさを味わい、楽曲に合った奏法の工夫をして、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。 【学習内容】 ・楽器の奏法を身に付ける。 ・他パートとの関わりを理解し、表現の工夫をする。					○	○	○	○														(1) (2) (2) (4) (8) (11)	【知・技】・曲想と演奏形態の特徴との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他パートとの関わりをとらえ、調和を図って演奏する技能を身に付けている。 【思】各パートの役割を知覚し、それらの働きを感じながらハーモニーや曲想について考え、自己のイメージを持って器楽表現を創意工夫している。 【態】楽器による音楽表現に関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
	体を楽器に	【目標】 ボディ・パーカッションの特徴を理解し、テンポや強弱等の表現の工夫をして、主体的・協働的に表現の学習活動に取り組む。 【学習内容】 ・テンポ、拍子の変化をとらえ、リズムを感じ取る。 ・体全体を使って表現する。					○	○	○	○														(1) (2) (2) (4) (8) (11)	【知・技】・リズム音楽と身体表現との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした身体表現をするために必要な、正確なリズムの理解と他パートと調和を図って演奏する技能を身に付けている。 【思】各パートの関連を知覚し、それらの働きを感じながら、拍子、テンポ、強弱などについて考え、オリジナリティーのある身体表現を創意工夫している。 【態】ボディ・パーカッションに関心を持ち、主体的・協働的に表現の学習活動に取り組もうとしている。
	鑑賞	【目標】 スケルツォの様式や各主題の曲想の違いを理解し、よさを味わって、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【学習内容】 ・各主題の特徴を感じ取って聴く。 ・ピアノの技巧や叙情的な旋律を味わう。														○	○	○	○					(1) (2) (2) (4) (8) (11)	【知】楽曲の美しさ、演奏形態や各主題の特徴との関わりについて理解している。 【思】楽器の音色や旋律、ハーモニーとの関連を知覚し、それらの働きを感じながら表現上の効果について考え、音楽のよさを自ら味わって聴いている。 【態】ピアノ音楽の表現の可能性に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	創作	【目標】 音素材の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、音の反復やリズムの変化を工夫して、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。 【学習内容】 ・音楽が使われている場面を理解する。 ・様々な楽器を使用して、旋律をつくる。 ・いろいろな形式を使って規模の大きな楽曲を作る。															○	○	○					(1) (2) (2) (4) (7) (8) (10) (11)	【知・技】・楽器の特徴について、場面にふさわしい音楽として表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、旋律の創作と音の反復やリズムを工夫する技能を身に付けている。 【思】様々な楽器の音の違いを知覚し、それらの働きを感じながら個性的な旋律について考え、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫している。 【態】創作に関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
II 学期 (1~3月)	鑑賞	【目標】 楽曲のもととなる文学的題材と各旋律との関係を理解し、文学や他の芸術との関連に関心を持って芸術文化を愛好する心情を育む。 【学習内容】 ・作品の文学的な内容を理解する。 ・各主題の表現上の効果を感じ取って聴く。																					(1) (2) (2) (4) (8) (11)	【知】楽曲の各主題と文学的題材との関わりや、その表現上の効果について理解している。 【思】楽器の音色や旋律、ハーモニーとの関連を知覚し、それらの働きを感じながら楽曲の文学的背景について考え、音楽のよさを自ら味わって聴いている。 【態】文学や他の芸術に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

※「内容の取扱い」の太字は、(3)に準拠した音楽Iで示されているものを指す